

市町村名	渡名喜村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-①	環境保全・美化推進事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア			
					観光リゾート産業の振興			
担当部課名	民生課・経済課	事業実施 (予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)			
事業内容	集落内及び観光地周辺の清掃美化、外来植物の駆除及び在来植物の保全育成を行う。							
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)							
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	25,583	38,192	51,840	49,924	34,222	
		(b) 予算現額	26,077	27,584	47,745	36,605	24,577	
		(c) 増減額 (b-a)	494	▲ 10,608	▲ 4,095	▲ 13,319	▲ 9,645	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	26,077	27,584	47,745	36,605	24,577	
	B. 執行済額		26,077	27,584	43,052	28,256	21,017	
	うち交付金充当額		20,861	22,067	34,441	22,604	16,813	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	90.2%	77.2%	85.5%	
	予算の状況の説明		前半の執行状況を考慮し、中盤で168日から112日に減額し、当初計画より9,645千円を減額した。しかし出勤率や天候不順のため計画通りの日数を消化できなかったため、不用額3,560千円が出た。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	目標値 (30年度)	
	緑化及び美化活動実施箇所	目 標	(28箇所)	()	()	()		
		実 績	28箇所					
	外来植物駆除実施箇所	目 標	(8箇所)					
		実 績	8箇所					
	在来植物保全育成実施箇所	目 標	(14箇所)	()	()	()		
		実 績	14箇所					
	達成 状況 説明	賃金作業員を雇用し、集落内や観光スポット周辺の緑化及び美化活動を28箇所、外来植物(ギンネム等)駆除を8箇所、また在来植物の保全育成を14箇所行った。						
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度
観光地周辺の道路環境及び景観形成について、観光地としてふさわしい道路環境及び景観であると感じる人の割合80%以上を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。		目 標	()	(80%)	()	()	()	
		実 績		93.20%				
進捗 状況 説明		本村唯一の玄関口である渡名喜漁港のフェリーターミナル内で島外からの来島者に対するアンケート調査を行い、回答者のうち、観光地としてふさわしい道路環境及び景観であると感じた人の割合は93.2%(集計対象期間H29.4～H30.2)であった。目標の数値を達成できたと考え						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・夏場の猛暑時期の作業員の休みが多く出勤率が悪い。 ・天候不良により作業日数が減少した。	・猛暑時期の出勤率向上のため勤務時間の見直しを行うほか、作業効率の改善を図る。 ・天候不良時の日数減に対応するため、作業日数の調整手法の検討を行う。
今後の取り組み方針		
・猛暑時の出勤率向上に向けて休憩時間の延長を行うとともに、作業環境の改善を行い、作業効率の上昇を図る。 ・天候不良による作業日数の減少が生じた場合は、月末に出勤日を増やすなど、計画通りの日数消化を目指す。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		21,017	21,017	16,813	4,204	0
渡名喜村 21,017千円 賃金 18,972千円 需用費 809千円 役務費 600千円 備品購入 636千円 環境保全・美化作業推進作業員 35 作業員消耗品費 作業員燃料費 沖縄大同火災海上保険 591千円 (株)久米商船 9千円 ニッシン(株) 390千円 (有)サキハマ 246千円 作業員災害保険料 消耗品等フェリー運賃 草刈り機購入 原動機付自転車購入						
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目			評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。			・業者選定については、見積もりを徴収し選定しており妥当であったと考えている。 ・予算規模について、3社以上見積もりを徴収し適正な価格で契約し適正であった。 ・費用・使途ともに必要最低限のものであり適正であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。				
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。				
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

市町村名	渡名喜村						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	離島苦解消移動手段安定化対策事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ウ			
担当部課名	総務課	事業実施 （予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	交通基盤の整備と交通 ネットワークの充実強化		
事業内容	島民及び来島者の交通手段を安定的に確保するため、フェリーの欠航時等に代替手段となるヘリタクシーを利用した場合の運賃を一部支援する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,000	2,000	2,000	2,000	2,400
		(b) 予算現額	1,240	1,560	760	2,680	1,920
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 760	▲ 440	▲ 1,240	680	▲ 480
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計 (b+d)	1,240	1,560	760	2,680	1,920
	B. 執行済額		1,240	1,560	760	1,344	1,920
	うち交付金充当額		992	1,248	608	1,075	1,536
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	50.1%	100.0%
予算の状況の説明		上半期において比較的天候が安定していたことから、フェリーの欠航回数の減少に伴うフライト回数が減少したため当初予算より480千円減額した。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	観光客及び住民 （フライト実施に係る支援回数40回）	目 標	（ 40回 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績	40回				
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績					
達成 状況 説明	当初予定していたフライト回数は50回であったが、前半の天候が安定していたため12月において計画上不要となるフライト回数を減少し目標を40回と変更を行った。その後概ね想定通りフェリー欠航時、渡名喜島ヘリポート～那覇空港のフライトを実施した。後半の欠航時における利用希望者の搭乗率の増加に伴い目標フライト回数を達成出来た。						
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （ 年度）
	フェリーの欠航時等に代替手段となるヘリ タクシーの運賃補助を行うことで、利便性が 確保されていると感じたか(80%以上)を含 め、当該事業の在り方をアンケートで検証 する。	目 標	（ ）	（ 80% ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		97%			
	進 捗 状 況 説明	本事業の利便性のアンケートを実施したところ、概ね肯定的であると考えられる数値が97%となり、目標の80%以上を達成することが出来た。このことから本事業を実施することによりフェリー欠航時においても、観光を含め島民が安心して沖縄本島の往来がよりスムーズになったと考えられる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・欠航等におけるヘリの利用は本村を含めた周辺離島も利用することから台風時や冬場の海上時化等に利用者が集中することで本村からの利用者への影響が想定される。 ・2月から3月にかけてフェリーの欠航が増加したため、ヘリ利用が増加したが想定を上回る利用が生じたため、6回のフライトが村単独の経費となった。	・ヘリの予約状況などの情報を収集し、利用者等へ連絡する必要がある。 ・毎年天候が荒れる冬場のフライト回数を慎重に判断し、十分な利用回数を見込む必要がある。
今後の取り組み方針		
・台風時や冬季の海上時化時に、ヘリ業者から予約状況を把握して島内利用者へ周知することで、円滑なヘリ利用を図る。 ・冬季のフライト回数を適切に見込み、十分な予算を確保して着実な事業の実施を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>1,920</td><td>1,920</td><td>1,536</td><td>384</td><td>0</td></tr></table> 渡名喜村 1,920千円 補助金 1,920千円 エクセル航空株式会社 1,920千円 フライト料の6割補助					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,920	1,920	1,536	384	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,920	1,920	1,536	384	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・県内で民間ヘリ輸送を行っている業者はエクセル航空のみであり業者選定・補助先については適正であったと考える。 ・フライト料の6割を補助金交付する事としており、過去の欠航回数や周辺離島のフライト料金を吟味し適正に補助額を決定している。 ・予算規模については、補助基準額の範囲内であり適正であった。 ・当初から1フライト価格80,000円(税抜)のうち6割の48,000円を村が補助しているが、料金改定により、1フライト価格が120,000円(税抜)となった現在、差し引き72,000円の負担については県がそのうちの40,000円を補助し、ヘリ利用者は双方の補助額を差引いた34,560円(税込)の負担となっており、料金の負担関係は妥当である。またその費用、使途については補助金交付規則に沿って適正に執行されている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	渡名喜村						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	児童・生徒の教育活動助成事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ			
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	平成26～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実		
事業内容	村外での教育諸活動（スポーツ・文化）及び交流学习へ参加する児童生徒に対し、船賃等の補助を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,284	1,284	1,027	1,866	
		(b) 予算現額	313	1,284	470	1,589	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 971	0	▲ 557	▲ 277	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	313	1,284	470	1,589	
	B. 執行済額		313	422	300	275	
	うち交付金充当額		250	336	240	220	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	32.9%	63.8%	17.3%	
予算の状況の説明		本村は、離島村であることから船便が唯一の交通手段であり、季節風や台風等により海上が時化になり、フェリーが欠航した場合には、島外での教育活動が出来ない。実績において当初に比べて不用額が1,314千円でているが、このような理由から児童生徒の当該教育活動への参加回数が減った事によるものであり、不用額を見込み12月において事業費を277千円を減額し、予算の計上などについては適切な予算規模であったと考えている。					
活動目標（指標）及び達成状況			達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	スポーツ大会参加 （小学生24名、中学生37名）	目 標	（ 小26名 中56名 ）	（ 小26名 中56名 ）	（ 小15名 中40名 ）	（ 小24名 中37名 ）	
		実 績	小31名 中14名	小18名 中30名	小15名 中18名	小16名 中9名	
	文化発表会等参加 （小学生17名、中学生10名）	目 標	（ 小16名 中17名 ）	（ 小16名 中17名 ）	（ 小16名 中13名 ）	（ 小17名 中10名 ）	
		実 績	小2名 中8名	小21名 中17名	小23名 中7名	小12名 中3名	
	交流学习参加 （小学生17名、中学生10名）	目 標	（ 小13名 中9名 ）	（ 小13名 中9名 ）	（ 小15名 中8名 ）	（ 小17名 中10名 ）	
		実 績	小9名 中2名	小18名 中2名	小15名 中8名	小10名 中7名	
	達成状況説明	村外での教育諸活動（スポーツ・文化）及び交流学习へ参加する児童生徒に対し補助を実施した。（小学校3回、参加延べ人数38人、中学校5回、参加延べ人数19人、合計延べ人数57人）					
	成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値（ 年度）	29年度	30年度	31年度
申請した保護者へのアンケートで、児童・生徒が島内ではできない経験をすることができたとの回答割合80%以上		目 標	（ ）	（ 80% ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		100%			
進捗状況説明		アンケートの結果から、事業の目的である計画していた大会等に参加することにより、児童・生徒が当該派遣を通し精神的及び肉体的な成長の勇躍を図ることができたと考える。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・台風などの天候不良により、大会への派遣が困難となる事態が生じた。	・天気不良が見込まれた場合、日程を前倒して派遣するなどの手法を検討する。
今後の取り組み方針		
・夏場の台風、冬場の季節風等を勘案し、天気の安定している前日に派遣を行うなど、毎年度計画している派遣事業の全ての大会等に児童・生徒が参加できるように取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費			交付対象 外経費
		交付金 充当額	市町村 負担金	
275	275	220	55	0

渡名喜村
275千円

→

補助金
275千円

→

児童・生徒・指導者
275千円

〔 村外活動に係る船賃及び宿泊費 〕

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先は要綱に従って選定されており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算額については、不用額が出ているが、天候等の影響による事業中止を考慮する等のやむを得ない理由によるものであり、事業費の見直しを図るなどを行っており、適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・旅費のうち船賃・宿泊費・村保有の車両の運送費の料金については100%補助金で負担しており、その他食事代や燃料費、レンタカー台の経費については教育員会が負担しており、それ以外の軽食代等諸経費については各々児童・生徒の保護者の負担としており、受益者との負担関係については妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・補助金の使途については、要綱に従った経費であるか等について書類等により確認し、適正であることを確認している。